

プラン名 授業は問いから始まる物語 (B評価以上の児童80%)

1 授業づくり

12か条+(プラス)
2条 7条

(1) 現状・課題 (R)

見通しの段階でどの既習事項を用いれば解けるのか自己決定ができず、自ら問いを立てられずにいる。そのため、適用問題での自力解決に困難さが見られる。	現状(科学的データ)		
	令和2年度 後期学力向上プラン		
	活用力問題	低学年平均 % 高学年平均 %	※既習を生かして解けていた。
	適用問題	解けなかった児童は、既習事項を想起して問いを立てることができず、自力解決することができていなかった。	正答率 %
	令和3年度 町学力調査(5年生)※4月実施		
	国語科	3(3) 文章の内容を話し合っている場面を条件記述する問題	%
	算数科	7(3) 条件にあったお菓子の値段を求める式の間違いを説明する問題	%
理科	9(3) 2つのスイッチでプロペラの速さの異なる回路図を作る問題	%	
[要因] △児童の学習内容の定着に二極化傾向が見られる。 →指導者が単元や問題提示の際に、児童に問いを持たせられていないため、自力解決へと繋がっていない。 △町学力調査では既習の学びを応用できていない。 →指導の際、既習事項との結びつきが不足しているため、本時の学びの有用性を児童に感じさせられていない。また、そのような受け身の授業展開では、児童の批判的思考は養われない。			

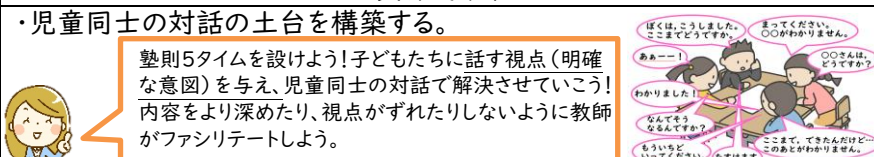
(2) 計画と実行 (P・D)

前期目標	具体的取組										
必要な情報は何か、どの既習がなぜ使えるのかの見通しを持って、自ら問いを持ち再構築のある学びに向かうことができる。	<p>まりこさんは、小麦粉 150g、バター75g、砂糖 90gを入れてパンを作りました。おいしくできたので、同じ味のパンを今度はもっとたくさん作ろうと思って、小麦粉を 500g用意しました。砂糖は何g必要ですか。</p> <p>①課題設定の工夫(児童の問いや疑問を基にして課題を設定する。) ②既習事項とのつながりを明確にする。 (各教科の見方・考え方を用いて、どの既習が「なぜ使えるのか」まで繋げる。)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>同じ味にするってどういうこと?小麦粉は350g 増えているけど...</p> </div> <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;"> <p>同じ味にするためには、小麦粉と砂糖を比べれば解けるかも。2つの量を比較するなら比の考え方が使えそう!</p> </div> </div>										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価(結果)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・参観シート(研究授業)</td> <td>①児童に問いを持たせる課題設定 () ②既習事項とのつながり () ③主体的な学習態度の評価 () ④塾則5タイム 児童1人1回以上発言 ()</td> </tr> <tr> <td>・単元テスト</td> <td>4教科(国・社・算・理) B評価以上80% (%)</td> </tr> <tr> <td>・評価シート</td> <td>4教科(国・社・算・理) B評価以上80% (%)</td> </tr> <tr> <td>・児童アンケート(4教科)</td> <td>I「既習を生かして考えることができた」肯定回答 80% (%) II「教科の学びを生活に生かしている」肯定回答 70% (%)</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価(結果)	・参観シート(研究授業)	①児童に問いを持たせる課題設定 () ②既習事項とのつながり () ③主体的な学習態度の評価 () ④塾則5タイム 児童1人1回以上発言 ()	・単元テスト	4教科(国・社・算・理) B評価以上80% (%)	・評価シート	4教科(国・社・算・理) B評価以上80% (%)	・児童アンケート(4教科)	I「既習を生かして考えることができた」肯定回答 80% (%) II「教科の学びを生活に生かしている」肯定回答 70% (%)
評価項目	評価(結果)										
・参観シート(研究授業)	①児童に問いを持たせる課題設定 () ②既習事項とのつながり () ③主体的な学習態度の評価 () ④塾則5タイム 児童1人1回以上発言 ()										
・単元テスト	4教科(国・社・算・理) B評価以上80% (%)										
・評価シート	4教科(国・社・算・理) B評価以上80% (%)										
・児童アンケート(4教科)	I「既習を生かして考えることができた」肯定回答 80% (%) II「教科の学びを生活に生かしている」肯定回答 70% (%)										

(3) 検証と改善策 (C・A)

月	評価項目(誰が、いつ)	結果	改善策
4	<input type="checkbox"/> 今年度の研究の共有		
5	<input type="checkbox"/> 参観シート①②③④【5年研究授業】 <input type="checkbox"/> 評価シート【検証 最終週】	① ② ③ ④	
6	<input type="checkbox"/> 参観シート①②③④【4年研究授業】 <input type="checkbox"/> 評価シート【検証 最終週】	① ② ③ ④	
7	<input type="checkbox"/> 参観シート①②③④【2年研究授業】 <input type="checkbox"/> 児童アンケート【検証 第2週】 <input type="checkbox"/> 単元テスト【学担 学期末】	① ② ③ ④ I % II % 国 社 算 理	

2 基盤づくり

前期目標	具体的取組	評価
わからないことを話し合って理解に繋げることができる。 児童1人1回発言(該当する反応の言葉含む)	<p>・児童同士の対話の土台を構築する。</p> <p>塾則5タイムを設けよう!子どもたちに話す視点(明確な意図)を与え、児童同士の対話で解決させていこう!内容をより深めたり、視点がずれたりしないように教師がファシリテートしよう。</p> 	
タブレットを用いて話し合い活動ができる。	・Google Chrome を日常的に使用する。(スライド、ジャムボード、共有ファイル等の活用)	